

埼玉育ちのグローバル人

卓球を通して見る中国と日本

～二つの故郷が私にくれた宝物

第3回 「違いがあっても、心は通じる

～卓球を通じた出会いは私の宝物」

卓球プロコーチ 鄭 慧萍 (テイ ケイヒョウ)



埼玉県マスコット「コバトン」



皆さん、こんにちは。鄭慧萍です。連載の第1回と第2回をお読み頂き、ありがとうございます。第1回と第2回では、中国の代表選手になった経験を通して、レベルの高い選手が集まる環境にいることが、自分を高めていくことに繋がることについてお話ししました。またレベルの高い選手が集まる環境に行くには初めから目標を高く保つ必要があることについてもお話ししました。

今回は「様々な価値観に触れることの大切さ」についてお話ししようと思います。

人々はそれぞれ異なる考え方をします。その理由は幼い時からの習慣、育った環境など様々です。そしてその違いを最も顕著に感じるのは「自分の国以外」のものや人に触れた時ではないでしょうか？そしてその違いを感じた際に人々がとる行動は様々です。興味を持ってもっと知ろうとする人もいれば、拒絶する人もいます。

しかしこれからは国境という概念がますます薄れる、いわゆるグローバルな時代となってきます。その様な時代になれば、世界中の様々なものに触れることが多くなるので「違い」を感じる機会も増えるでしょう。これからの時代、私は「初めから違いがあるということ踏まえた上でお互いを理解する」という姿勢を持つことで「自分をより豊かにする」チャンスがより増えていく時代だと思っています。そしてその違いを認識し受け入れるための土台を作るには、若い時から積極的に海外に行き、

異文化に触れることが大事だと考えています。

まだ私が中国にいる時、日本の高校生の代表選手が中国に訪問試合に来たことがあります。試合の間に、ベンチに戻って、コーチのアドバイスを聞く時に、女子高校生が正座して聞いていたのを見ました。中国ではそういう光景を見たことがないので、とても驚いた記憶があります。

また、中国では握手が普通で、あまりお辞儀をする習慣がありません。日本に来て間もない頃、自分ではやっているつもりでも、周りの方に「違うよ」と指摘されることがありました。その時、たまたまある銀行の卓球部の選手と一緒に合宿をする機会があり、その方から新入社員が研修する時に習う標準的なお辞儀の仕方を教えていただいてなんとかお辞儀をマスターすることができました(笑)

しかしこれらの「違い」に関して、「堅苦しい」などと違和感を覚えることはありませんでした。むしろ皆、お互い相手を尊敬し合って、とても居心地のいい雰囲気だなあと感じました。

私は小さい頃から親元を離れて寮で、いろいろな所から集まった選手たちとの共同生活を経験したのち、21才の時に来日しました。その時は若かったですし、まだ価値観が完全に定着していない時期だったので、異文化に慣れるのが早かったのかもしれないです。ですので、なるべく若い時に、違う

文化圏の方との接触する機会があれば、積極的に経験したほうが良いと思います。仮に外国に行けなくても、国内でもなるべく多くの方と関わりを持てれば、異なる方々の考えや文化に触れられると思います。そうすることで多様な価値観に対するキャパシティが形成されていき、自分をより豊かにできるのではないのでしょうか。



卓球教室にて

ここまでで、異文化を理解することで自分のキャパシティが広がる話をしてきましたが、異文化を理解することが大切である理由はそれだけではありません。他者と心を通じ合わせることにしても、とても大事なのです。私の場合、周りによくしてくださる方がいっぱいいたからこそ、ここまで来られたと言っても過言ではありません。そんな私が最も皆様に助けられたのは「子育て」に関してです。

女性は、仕事と子育てすることの両立がとても難しいと皆さんも感じていると思います。私も例外ではありません。卓球のコーチの仕事は、会社勤めと違って、時間的に不規則であったり、試合と講習会などで出張に出ることも少なくありません。主人も海外出張の多い仕事をしていたため、子供が小さい頃は、中国にいる両親に日本に来てもらって、子供の面倒を見てもらいました。中国から両親が手伝いに来て、家事に関してはとても助かったのですが、幼稚園、学校関係のことは初めての子育てということもあり私も全くわからない状態です。

そんな時、私が教えている方達の中に、すでに子育てが終わった年代の方もいらして、その方達に幼稚園、学校に行く時の持ち物を教えていただきました。また、授業参観の日に私がどうしても都合がつかない時は、近所の方が代わりに出席してくださいました。それから、子供が受験するときも、なぜか子供以上に不安がっている私に対して、塾選びやメンタルサポートまでしてくださいました。海外から日本に来て、右も左もわからなかった私がここまで来られたのも周りの方々に助けていただいたおかげだと思っています。必死に物事に取り組んでいる人に、周りの方が力になってあげようとするのは、どこの国の人でも同じだと、この経験を通じて感じました。

卓球を通じて、様々な中国の方、日本の方との出会い、そこで経験したことが二つの国が私にくれたかけがいのない宝物です。人間が一人で成し遂げられることは限られています。しかし、周りの方と協力して成し遂げられることは無限大にあります。是非皆様も若いうちから様々な人と会って、自らの価値観を広げるとともに人脈を広げていってください。

最後までお読みいただき、ありがとうございます。すこしでも皆さまの役に立てれば嬉しく思います。

鄭慧萍